

地 勢

本圏域は、県中央よりやや北部に位置します。北は日光国立公園を背景とする雄大な高原山系に面し、西に北部山岳地帯より源を発する鬼怒川、東に箒川の清流等の大小河川と緑豊かな森林などの自然環境に恵まれ、南は平坦な田園地帯が広がり、南北に長いひし形をしております。

塩谷広域行政組合は、矢板市、さくら市、塩谷町及び高根沢町（2市2町）で構成され、圏域の総面積543.02km²は、県土の8.47%、人口116,923人は県全体の5.97%を占めております。

一方交通網は、主な幹線高速交通ネットワークとして、東北新幹線、東北自動車道があり、一般国道が3路線（4号、293号、461号）整備されています。また、鉄道網としてJR宇都宮線、JR烏山線があります。

塩谷地区広域市町村圏では、「豊かな自然と都市機能がある快適で活力ある塩谷広域圏」をめざして地域振興に取り組み、健康で活力があり、安全、快適で独創的な主体性ある地域社会づくりが期待されています。



	面積(km ²)	人口(人)	世帯数
矢板市	170.46	31,904	13,132
さくら市	125.63	44,578	16,502
塩谷町	176.06	11,001	4,032
高根沢町	70.87	29,440	12,462
合計	543.02	116,923	46,128

※令和2年4月1日現在

※住民基本台帳に基づく人口

沿 革

昭和40年	1月	1日	矢板市消防本部を設置、消防ポンプ自動車1台 消防職員8名採用 矢板市から出向者1名
昭和44年	4月	1日	消防職員6名採用し15名となる
	3月		矢板市消防本部庁舎落成
	4月	1日	消防職員4名採用
	4月	8日	消防職員1名採用
昭和45年	12月	1日	消防職員1名採用
	4月	1日	消防職員1名採用

広域消防設立の経過

昭和45年9月以降、数次にわたり関係5市町（矢板市、塩谷町、氏家町、高根沢町及び喜連川町）の長、執行部、議会、消防団長等による消防業務を共同処理するための協議を重ね、県の説明と指導を受け、途中幾多の難題を越え大筋の同意を得て昭和46年2月15日「塩谷郡市広域消防推進協議会」が発足し、政令指定の陳情、具体的な消防施設整備計画の決定をみた。

昭和46年3月政令指定の内示に伴い関係市町議会に「塩谷郡市消防組合」設立に関する議案を提出し、原案のとおり可決され、3月26日栃木県知事に申請し、昭和46年4月1日付、矢板市を中心として、塩谷町、氏家町、高根沢町及び喜連川町の1市4町をもって塩谷郡市消防組合が発足した。

消防本部は、矢板市に置き、本部1、署1の組織で職員は、矢板市からの引継ぎ職員を主力に8名の新規採用者を加えて出発した。当時は、暫定的に矢板市消防本部庁舎を本部、署として使用。消防車両、機械器具も矢板市から引き継がれた。

昭和46年	5月	1日	塩谷郡市保健予防組合から1名出向
	8月	1日	消防職員32名採用
	12月	20日	水槽付消防ポンプ自動車3台購入
昭和47年	2月	1日	消防職員8名採用
	2月	10日	消防職員1名採用
	3月	1日	高根沢分遣所庁舎落成。水槽付消防ポンプ自動車を1台配置、職員13名配置し業務開始
	3月	15日	救急自動車1台購入
	3月	21日	氏家分遣所庁舎落成。水槽付ポンプ自動車1台、救急自動車1台配置、職員17名配置し業務開始
	4月	1日	消防職員14名採用
	4月	3日	消防職員1名採用
	7月	1日	広報連絡車1台購入、氏家分遣所に配置
	8月	30日	救助工作車1台購入、矢板消防署に配置
	9月	1日	消防職員25名採用
	10月	13日	普通消防ポンプ自動車2台購入
11月	21日	救急自動車1台購入、高根沢分遣所に配置し救急業務開始	

昭和48年	12月20日	喜連川分遣所庁舎落成、消防ポンプ自動車1台を配置、職員13名配置し業務開始
	2月1日	塩谷分遣所庁舎落成、消防ポンプ自動車1台を配置、職員13名配置し業務開始。救急自動車1台購入、矢板消防署に配置
	4月1日	消防職員13名採用、126名となる
	4月16日	指令車1台購入、矢板消防署に配置、広報連絡車3台購入、塩谷、高根沢及び喜連川分遣所に配置
	5月1日	救急自動車2台購入、塩谷及び喜連川分遣所に配置、救急業務開始
昭和49年	6月15日	普通消防ポンプ自動車1台購入、矢板消防署に配置
	8月9日	日本道路公団から救急自動車1台貸与、東北自動車上り線矢板・宇都宮IC間救急業務開始
	4月1日	消防職員8名採用、134名となる
	6月26日	普通消防ポンプ自動車1台購入、氏家分遣所に配置
	7月1日	化学消防ポンプ自動車1台購入、矢板消防署に配置
昭和50年	11月27日	広報連絡車1台購入、矢板消防署に配置
	12月20日	東北自動車下り線矢板・西那須野IC間救急業務開始
	4月1日	消防職員6名採用、139名となる
昭和52年	6月26日	日本損害保険協会から普通消防ポンプ自動車1台寄贈「矢板号」、小型動力ポンプ3台購入、塩谷、高根沢及び喜連川各分遣所に配置
	10月30日	現場指揮車1台購入、本部に配置
	2月22日	連絡車1台購入、本部に配置
昭和53年	4月1日	欠員補充のため消防職員6名採用
	10月4日	普通消防ポンプ自動車1台購入、高根沢分遣所に配置
昭和54年	4月1日	塩谷地区広域行政事務組合と合併し、塩谷広域行政組合消防本部となり、分遣所を分署に昇格、組織を1本部1署4分署とする。事務部局の合理化により、消防職員定数136名となる。
昭和55年	12月25日	栃木県防災行政無線を消防本部に設置
昭和56年	3月25日	矢板消防署庁舎新築
	4月1日	消防吏員4名、矢板市、塩谷町、氏家町、高根沢町へ配置替え
昭和57年	6月8日	査察連絡車1台購入、本部に配置
	6月26日	矢板消防署庁舎落成式挙行
	6月30日	矢板消防署倉庫、整備庫等竣工
	9月10日	救急自動車1台、日本消防協会より寄贈され矢板消防署に配置
	2月26日	事務部局の合理化により、消防職員定数130名となる

昭和58年	3月5日	消防本部指令車1台更新、氏家分署広報連絡車1台更新
	4月1日	機構改革により、事務部局の合理化を図り、窓口事務の変更
	8月19日	救急自動車1台、日本消防協会より寄贈され、氏家分署に更新配置
	8月31日	水槽付消防ポンプ自動車1台購入、矢板消防署に更新配置
昭和59年	12月1日	消防本部庁舎改築、複合事務庁舎となる
	3月31日	塩谷、高根沢及び喜連川分署の広報連絡車更新
	9月28日	水槽付消防ポンプ自動車1台購入、高根沢分署に更新配置
昭和60年	3月22日	塩谷分署救急自動車更新
	7月1日	矢板消防署広報連絡車更新
	10月1日	水槽付消防ポンプ自動車1台購入、氏家分署に更新配置
昭和61年	7月23日	救助用ゴムボート1艇購入、矢板消防署に配備
	9月25日	消防ポンプ自動車2台購入、塩谷及び喜連川分署に更新配置
昭和62年	2月10日	救急自動車1台、日本損害保険協会より寄贈され矢板消防署に更新配置
	2月14日	本部連絡車更新
	4月1日	消防職員5名採用
	8月22日	普通消防ポンプ自動車2台購入、矢板消防署及び氏家分署に更新配置
昭和63年	4月1日	消防吏員4名、矢板市、塩谷町、氏家町及び高根沢町へ配置替、消防職員4名採用
平成元年	2月2日	救助工作車1台購入、矢板消防署に配置し特別救助隊編成
	4月1日	消防吏員1名、喜連川町へ配置替 消防職員2名採用
平成2年	4月1日	消防吏員1名、高根沢町へ配置替 組合事務局より1名出向
平成3年	4月1日	消防吏員2名、矢板市及び塩谷町へ配置替 組合事務局へ1名出向 消防職員3名採用
	10月18日	救急自動車1台購入、矢板消防署に更新配置
	12月20日	普通消防ポンプ自動車1台購入、高根沢分署に更新配置
	1月28日	救急自動車1台山之内製薬(株)より寄贈、高根沢分署に更新配置
平成4年	4月1日	消防吏員1名、氏家町へ配置替、1名退職 消防吏員2名採用
	11月16日	化学車1台購入、矢板消防署に更新配置
平成5年	3月17日	広報車1台購入、消防本部予防課に更新配置
	4月1日	消防吏員1名、喜連川町へ配置替

		消防吏員 3 名採用
	1 0 月 1 5 日	消防吏員 1 名退職
	1 2 月 1 7 日	広報車 1 台購入、氏家分署に更新配置
平成 6 年	1 2 月 2 6 日	資機材運搬車 1 台購入、矢板消防署に配置
	3 月 3 1 日	消防吏員 1 名退職
	4 月 1 日	消防吏員 1 名、塩谷町へ配置替 消防吏員 4 名採用 組合事務局 1 名出向
	5 月 1 6 日	消防吏員 1 名退職
	7 月 2 0 日	防火号 1 台、日本防火協会より寄贈、矢板消防署に配置
	9 月 2 8 日	広報車 1 台購入、塩谷分署に更新配置
平成 7 年	1 1 月 2 9 日	山林火災用コンテナ購入、矢板消防署に配置
	2 月 2 7 日	救急車 1 台購入、氏家分署に配置
	4 月 1 日	消防吏員 1 名採用
	9 月 2 8 日	広報車 2 台購入、高根沢及び喜連川分署に更新配置
平成 8 年	1 1 月 9 日	広報車 1 台購入、塩谷分署に更新配置
	2 月 2 9 日	救急車 1 台購入、喜連川分署に更新配置
	3 月 2 6 日	水難救助用コンテナ購入、矢板消防署に配置
平成 9 年	1 1 月 1 日	広報車 1 台購入、矢板消防署に更新配置
	1 1 月 7 日	連絡車 1 台購入、消防本部に更新配置
	1 2 月 1 8 日	救急車 1 台購入、塩谷分署に更新配置
	4 月 1 日	分署を署に昇格、組織を 1 本部 5 署とする 消防職員定数 1 5 0 名となる 消防吏員 4 名採用 消防学校へ 1 名派遣 組合事務局へ 1 名出向
	6 月 3 0 日	事務吏員 1 名退職
平成 1 0 年	1 2 月 1 6 日	化学車 1 台購入、氏家消防署に配置 水槽付消防ポンプ自動車 1 台購入、高根沢消防署に更新配置
	3 月 2 0 日	喜連川消防署庁舎新築、移転して業務開始
	4 月 1 日	消防吏員 5 名採用 栃木県消防防災航空隊へ 1 名派遣 組合事務局へ 3 名派遣 組合事務局から 1 名出向
	1 1 月 1 8 日	救助工作車 1 台購入、高根沢消防署に配置
平成 1 1 年	3 月 2 4 日	高規格救急車 1 台日本損害保険協会から寄贈、矢板消防署に更新配置
	3 月 3 1 日	消防吏員 1 名退職
平成 1 2 年	4 月 1 日	消防吏員 4 名採用 組合事務局へ 1 名出向 矢板市へ 1 名派遣
	4 月 1 日	消防吏員 5 名採用 栃木県消防防災課へ 1 名派遣

		組合事務局へ1名派遣
	10月31日	消防ポンプ自動車2台購入、塩谷及び喜連川消防署に更新配置
平成13年	3月16日	氏家消防署庁舎新築、移転して業務開始
	3月30日	液化石油ガス設備工事届出受理事務開始
	3月31日	消防吏員2名退職
	4月1日	消防吏員5名採用
		矢板市から1名出向
		組合事務局へ1名出向
		組合事務局へ1名派遣
		栃木県消防防災航空隊へ1名派遣
平成14年	2月6日	消防吏員1名退職
	2月25日	消防ポンプ自動車1台購入、氏家消防署に更新配置
	3月1日	消防吏員1名採用
	3月31日	消防吏員4名退職
	4月1日	組織改編により警防課を設置し、3名を配置
		消防吏員5名採用
		矢板市へ1名出向
		矢板市へ1名派遣
	6月2日	消防吏員1名退職
	6月25日	高根沢消防署庁舎新築、業務開始
平成15年	2月19日	消防ポンプ自動車1台購入、矢板消防署に更新配置
	3月25日	塩谷消防署庁舎新築、業務開始
	3月27日	高規格救急自動車1台購入、高根沢消防署に更新配置
	3月31日	消防吏員5名退職
	4月1日	消防吏員6名採用
		矢板市へ1名派遣
		組合事務局へ1名派遣
	7月25日	現場指揮車1台購入、消防本部に配置更新
平成16年	3月31日	消防吏員3名退職
	4月1日	消防吏員4名採用
		組合事務局から1名出向
		組合事務局へ3名出向
		栃木県消防防災航空隊へ1名派遣
	5月11日	軽連絡車購入、消防本部に配置
	11月22日	災害対応特殊救急自動車1台購入、氏家消防署に更新配置
平成17年	3月1日	矢板市より緊急消防自動二輪車3台贈与、矢板消防署に配置
	3月28日	氏家町と喜連川町が新設合併し、さくら市となる
	3月31日	消防吏員3名退職
	4月1日	消防吏員4名採用
	4月30日	消防吏員1名退職

	1 2月 8日	高規格救急自動車1台購入、塩谷消防署に更新配置
	1 2月 28日	高規格救急自動車1台日本損害保険協会から寄贈、喜連川消防署に更新配置
平成18年	2月 28日	消防吏員1名退職
	3月 1日	消防吏員1名採用
	3月 31日	消防吏員3名退職
	4月 1日	消防吏員3名採用
	8月 18日	広報車1台購入、消防本部予防課に更新配置
	9月 3日	栃木県・矢板市総合防災訓練実施
	1 1月 10日	災害対応特殊消防ポンプ自動車1台購入、高根沢消防署に更新配置
平成19年	3月 31日	消防吏員9名退職
	4月 1日	消防吏員8名採用 栃木県消防防災航空隊へ1名派遣
	8月 13日	訓練指導車(けすゾウくん)(財)日本宝くじ協会より寄贈、消防本部に配置
平成20年	3月 31日	消防吏員11名退職
	4月 1日	消防吏員9名採用 組合事務局から1名出向
	1 2月 9日	高規格救急車1台購入、矢板消防署に更新配置
平成21年	3月 31日	消防吏員4名退職
	4月 1日	組織改編により通信指令課を設置し、10名を配置(専従) 消防吏員9名採用 栃木県消防学校へ1名派遣 栃木県消防広域化協議会へ1名派遣
	6月 1日	消防本部・矢板消防署庁舎新築移転、業務開始 通信指令設備を導入、消防本部に設置、通信指令業務を開始
平成22年	3月 25日	救助工作車1台購入、矢板消防署に更新配置
	3月 31日	消防吏員11名退職
	4月 1日	消防吏員11名採用
	1 2月 17日	高規格救急車1台購入、高根沢消防署に更新配置
平成23年	3月 31日	消防吏員13名退職
	4月 1日	消防吏員12名採用
	1 2月 15日	災害対応特殊救急自動車1台購入、氏家消防署に更新配置
平成24年	2月 20日	災害対応特殊化学消防ポンプ自動車I型1台購入、矢板消防署に更新配置
	3月 31日	消防吏員13名、事務吏員1名退職
	4月 1日	機構改革により係制を廃止、担当制となる。
	4月 1日	消防吏員12名採用
	1 1月 28日	大田原地区広域消防組合、黒磯那須消防組合、南那須地区広域行政事務組合及び塩谷広域行政組合の消防指令事務の共同処理に関する協定締結

	12月13日	水槽付消防ポンプ自動車（水Ⅱ型）1台購入、高根沢消防署に更新配置
平成25年	1月31日	消防庁所有の緊急消防援助隊の活動に係る国有財産等の無償使用人員輸送車1台矢板消防署配置
	2月20日	支援車（Ⅱ型）1台購入、矢板消防署に更新配置
	3月31日	消防吏員4名退職
	4月1日	消防職員定数196名となる 消防吏員9名採用
平成26年	12月9日	水槽付消防ポンプ自動車（水Ⅰ-B型）1台購入、塩谷消防署に更新配置
	3月31日	消防吏員7名退職
	4月1日	消防吏員9名採用、1名再任用
平成27年	11月14日	広報車1台購入、氏家消防署に更新配置
	12月11日	高規格救急車1台購入、喜連川消防署に更新配置
	3月31日	消防吏員5名退職
	4月1日	消防吏員11名採用 栃木県消防防災航空隊へ1名派遣 栃木県消防広域化協議会へ1名派遣
	9月30日	高規格救急車1台購入、塩谷消防署に更新配置 広報車3台購入、塩谷消防署、高根沢消防署、喜連川消防署に更新配置
平成28年	10月1日	那須地区消防組合、南那須地区広域行政事務組合及び塩谷広域行政組合間において消防通信指令に関する事務を共同して管理執行するため、栃木北東地区消防通信指令事務協議会を設立。これに伴い、当該協議会事務に従事する職員として当消防本部より8名を選任し、栃木北東地区消防指令センター（那須地区消防本部庁舎内）において、119番通報の受信、出動指令等の共同運用を開始する。併せて消防救急デジタル無線（活動波）の運用を開始する。
	3月31日	消防吏員5名退職
	4月1日	組織改編により通信指令課を廃止 消防吏員10名採用 消防救急デジタル無線（共通波）の栃木県内全消防本部での共同運用開始
平成29年	9月30日	高規格救急車1台購入、矢板消防署に更新配置
	3月1日	消防吏員1名採用
平成30年	3月2日	災害対応特殊水槽付消防ポンプ自動車（水Ⅱ型）1台購入、氏家消防署に更新配置
	3月31日	消防吏員5名退職
	4月1日	消防吏員9名採用
	2月26日	救助工作車1台購入、高根沢消防署に更新配置
	4月1日	消防吏員7名採用 栃木県消防防災課へ1名派遣
	9月13日	高規格救急車1台購入、高根沢消防署に更新配置

平成31年	1月17日	広報車1台購入、矢板消防署に更新配置
	3月31日	消防吏員5名退職
	4月1日	消防吏員7名採用
令和2年	2月19日	水槽付消防ポンプ自動車（水I-B型）1台購入、喜連川消防署に更新配置
	4月1日	消防吏員7名採用 栃木県消防学校へ1名派遣